

平成26年度 弘前大学グローバル人材育成事業 学生海外PBLプログラム報告書

事業名：メイン州立大学異文化コミュニケーション集中講座

参加者：学生 12名

奥野 忠徳（教員）

実施期間：平成27年 2月15日ー平成27年 3月 8日

訪問先：アメリカ合衆国メイン州オロノ町（メイン州立メイン大学）

申請代表者：野呂 徳治（教育学部 教授）

《事業の概要及び成果等》

本事業は、異文化での生活体験及び英語圏での英語学習により、異文化コミュニケーション能力並びに英語コミュニケーション能力の伸長を図ると共に、グローバル化が加速度的に進行する21世紀において、より豊かな社会の構築に貢献するための資質能力として、地域の課題をグローバルな視点でとらえるグローバルマインドの涵養を目的とする。参加学生は、本学の海外協定校の一つである米国メイン州立メイン大学英語センターにおいて、本学教員の引率のもと、3週間にわたって米国メイン州においてホームステイをしながら、集中授業により英語コミュニケーション能力の伸長に努めた。また、受け入れ先大学の教員・学生並びにホストファミリーを始めとする受け入れ地域住民との意見交換及び異文化交流活動や学生個人またはグループで取り組む調査研究活動等を通して、各自が個別に学習課題として設定した今日的な地域課題に対するグローバルな視点からのアプローチについて実践的に学んだ。

参加者が設定した主な学習課題としては、「人口減少問題について考える」、「学校教育におけるジェンダーステレオタイプを考える」、「地域の社会連帯をどのように強めていけるか」、「個性と協調性のどちらを重視するか」等であった。参加者は各自が設定した課題について、メイン大学の学生とのグループディスカッションや個別インタビュー、あるいは、ホストファミリーを始め地域住民からの聞き取り調査によるデータ収集・分析を通して、考察を行っていた。それを基に、メイン大学英語センターで教員、メイン大学学生、ホストファミリーを対象に英語によるプレゼンテーションを行い、その成果を発表した。

事業終了後、参加学生を対象に聞き取り調査を行った結果、異文化コミュニケーションの意義・重要性を実感すると共に、英語学習への意欲が高まったとの報告がなされた。さらに、本事業がねらいとしている「地域の課題をグローバルな視点でとらえるグローバルマインド」についても、参加学生の報告書から、その発達の跡が認められた。

《メイン州立大学での活動の様子》

